がんばろう
末崎！
津波なんかに
負けない！

館報まっさき

第３２６号
令和４年２月２１日
大船渡市立
末崎地区公民館
電話（F 兼）29-2955

末崎町の石碑･祠･神社

54　八幡神社(八幡宮・八幡様・八幡社)について　～　その2
(3) 末崎町の八幡神社　～その2
② 平　平野光輝家氏神　コンクリート造　小祠
③ 門之浜　菊池平八郎氏宅　裏山　石の小祠
④ 門之浜　新山神社境内
⑤ 門之浜　別当・管理者　沢内の大屋(東日本大震災で流失)
拝殿　1間半×1間半、奥殿　半間×1間
⑥ 梅神　高清水の八幡神社　木造　瓦葺
別当・管理者　屋号　太郎屋　細川清勝氏
拝殿　2間×2間、奥殿　1間×1間　朱塗の鳥居あり

神社内の置札を見ると、現在の社殿は昭和 63(1988)年 5 月に、高清水の武田藤男氏(藤建)の棟梁で改築しています。何回改築しているか不明であるが、寛政 8(1796)年の建立の際の大工は小友村の五郎吉となっています。

五郎吉とは、宝暦 3（1753）年小友村松山屋敷に生まれ、生前 35 棟前後の堂宮建築に参加し、羽黒山までも出稼ぎの経験がありました。40 歳頃から 53 歳頃まで堂宮建築に専念しました。

手がけた中で有名なのは、大船渡市日頃市町長安寺の山門です。着工は寛政 10(1798)年で、五郎吉 45 歳であり男盛りのころであります。「槻と欅論争」にも関わった人です。

また、五郎吉は着工するや、百日間を小友村の自宅から日頃市まで、徒歩で通い通すとの心願を固めて実行しました。そのたゆまぬ努力に、よそ者棟梁として不満を持っていた、盛六郷の大工達も協力の機運が盛り上がり、現在に残る見事な楼門を残すことができました。(紀)

梅神　高清水の八幡神社

細浦漁港防潮完成間近（フラップゲート式）

日本初、世界初とも いわれ て岩盤と軟弱である。さらに、その下が砂極めが かつ。そのもの傾斜 平地は工事に費やした。海底の基礎 完成にとなる。この大半はかけ 発注は平成28年7月で 28年の歳月をかけて 完成フラップゲート式工事 のとおは、基本的なつぎの工事を実施する。 完成がまぢかとなった。すべての試験を終了した。 フラップゲートの防潮堤 は、世界初とも いわれ

月・28日午後2時から4時 のとおり。 安全周知設備試験放送 全周知設備試験放送 ・ 3月2日 ・ 3月2日 ・ 遠隔制御試験 ・ 県・市内影響 ・ 県庁から浦上浦漁港防潮堤のボタンを押してゲート を浮上させる試験 ・ 県庁からフラップゲートを星浮上細浮に

手続きを経て開始 ・ 2つの試験 ・ 2つの試験 ・ 県の最終検査 ・ 県の最終検査 ・ 問題 ・ 問題 ・ 供用開始 ・ 問題 ・ 問題 ・ 事務 ・ 事務 ・ 事務